

J **apanese text**

2016年 秋/冬号 日本語編

旅館

湯治

[The Ryokan Collection]

写真=工藤憲二

文=鈴木博美

p.086

日本人は古来より、神秘的な天からの恩恵として温泉を大切にしてきた。旅館に泊まり温かな湯に体を委ねれば、きっと心身が自然と一体化し、大地の恵みに癒される、極上の安らぎを味わうことができるだろう。

豊かな泉水と地熱に恵まれた日本は、世界屈指の温泉国である。自然を受容し寄り添うことで独自の文化を育んできた日本人は、古来より大地の恵みである温泉を愛し、楽しみ、心身の癒しに利用してきた。疲れが溜まっている現代の日本人にも、今、一番したいことを尋ねたならば、きっと「ゆっくり温泉に浸かりたい」という答えが多く返ってくるだろう。心地よい湯のぬくもりで体を温め、大自然から元気と活力をもらう。そんな癒しの効果を持つ温泉は天与の資源として大切にされ、温泉に入って病気や怪我を治すことは「湯治」と呼ばれている。

日本人が温泉に入るようになったのは、遺跡の発掘調査などから紀元前だと言われている。また、8世紀・奈良時代の文献には湯の効能について書かれたものがあり、この頃すでに湯治という考え方があったということを知ることができる。中世になると武士たちは、戦で傷つき疲れた体を回復させるのにこぞって温泉を利用した。西洋文化が伝わり近代医学が発達する前まで、温泉地は療養や疲労回復のための湯治の場であり、数々の名湯と讃えられる効能の高い温泉が各地に存在する。

このような名湯には、総じて興味深いいわれがある。例えば、北海道の登別温泉は原住民であるアイヌの人々が「薬湯」と呼び大昔から重宝していた歴史を持つ。また、熱海市の伊豆山温泉発祥の源泉と言われる「走り湯」は日本三大古泉の一つ。湧き出る湯は病を治し長寿に効くと信じられ、神

格化されて信仰の対象になっていた。修善寺温泉に伝わる伝説は、807年に川で病の父親の体を洗う息子の姿を見た高僧（弘法大師）が、手にしていた独鈷で岩を打ち温泉を湧き出させ、その温泉に入った父親は元気を取り戻したというもの。そういった逸話からも、長い歴史の中で日本人は温泉を、体を癒してくれる貴重で神秘的な自然の恩恵として捉えてきたことがわかる。

時代は移り変わっても、旅館を訪れ名湯に浴してみれば、日本人が「極楽、極楽」と表現する、ふわ一つとした心地よさを感じられる。その自然との一体感、自然に包まれる安らぎは、きっと極上の幸福感をもたらしてくれるはずだ。さらに近年では、体のコンディションを整えるための滞在プログラムやスパトリートメントなどを積極的に取り入れている宿も多い。日常を離れ、自然を感じながら思いのままに過ごしているうちに、肩の力が抜け身も心もリラックスしてゆく……。旅館には、まるで魔法のようなくつろぎの時間が待っている。

(p.087)

左上：湯船の水面が景色に溶け込んでいくかのように設計された、最上階5階にある半露天風呂「雲井の湯」。

右：濁り湯の露天風呂がある地階の「地縁の湯」。冬、雪景色の中で入る露天風呂には格別な風情がある。写真提供=滝乃家

上：滝乃家の温泉は、多彩な泉質で知られる地獄谷の源泉から引かれたもの。硫黄泉、食塩泉、鉄泉、ラジウム泉の4種の泉質が楽しめる。

(p.088)

上：全客室に源泉かけ流しの露天風呂を完備。プライベートな空間で、太平洋を見渡しながら温泉に浸かる贅沢なひとときを過ごせる。

左：食事は、事前に予約すれば糖質制限、ベジタリアン、ファスティング、ハラルなどに配慮した日本料理に対応してもらえる。

下：最上階にあるオープンエアのくつろぎの空間「紺碧テラス」から望む、相模湾の日の出。

写真提供= ATAMI せかいえ

(p.089)

右：600坪(約1984㎡)の池に沿って建てられた右手の客間棟。対岸には歴史ある貴重な能舞台があり、幽玄な風情が漂う。舞台では季節に応

じた古典芸能が催されることもある。

中：客室「撫子」から庭を望む。秋は窓一面に鮮やかな紅葉が広がる。
下：竹林を渡る風が心地よい野天風呂。はるか昔よりこんこんと湧き出る温泉で、身も心もリラックスして。

写真提供=あさば

やかな気配りと相まって、日本人のもてなしの心の真髓を感じさせる。地元の旬の食材を中心とした、季節感溢れる滋味深い食事にもファンが多い。世界的権威を誇る「ルレ・エ・シャトー」に加盟している。

住所／静岡県伊豆市修善寺 3450-1 部屋数／17 室

滝乃家

北海道随一の温泉地として名高い、登別温泉に位置する静寂な趣の旅館。「我が家のように自然体でくつろいでいただく」ことをコンセプトにした心のかもったおもてなしが、心地よい時間を紡ぎ出す。美しい四季折々の自然を眺めながら複数の泉質が楽しめる温泉の素晴らしさはもちろん、食材の宝庫と称される北海道の地元食材を主役にした食事楽しみの一つ。自家温泉水を使用した、オリジナルのスパトリートメントも人気が高い。

住所／北海道登別市登別温泉町 162 部屋数／30 室

ATAMI せかいえ

2015年4月にオープンした12部屋のスモールラグジュアリーリゾート。スタイリッシュな客室からは紺碧の海と空が広がる絶景を望め、各部屋の露天風呂で、古くから病を治し長寿に効験があるとされてきた伊豆山温泉を存分に楽しめる。伊豆半島で獲れた新鮮な魚介など、厳選された旬の食材を使った日本料理も美味。心身のリフレッシュを目的とした滞在プログラムも提案している。東京駅から新幹線と車を乗り継いで1時間弱と、アクセスがよいのも魅力。

住所／静岡県熱海市伊豆山 269-1 部屋数／12 室

あさば

宿坊として始まり、520年以上もの歴史を有する老舗旅館。敷地内には、木々が茂る深い緑に、水の気配、そよぐ風と鳥のさえずり……穏やかで美しい自然が広がっている。客室は、シンプルに設えられた清々しい和の空間。さりげなく細